

# 【小学校 図画工作】

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例と□は評価内容
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<p>自分の感覚や行為を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>～形や色などに気付いている。</li> <li>～形や色などの感じが分かっている。</li> <li>～形や色などの造形的な特徴を理解している。</li> </ul> <p>【知識】〔共通事項〕アを基に作成 下線部は、題材に即して、文言を削除したり追記したりする。 造形的な視点を豊かにするための知識として評価する。</p> <p>学習指導要領「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項の〔共通事項〕の取扱い」と題材との関連を考慮する。</p>	<p>形や色など(の感じ)(造形的な特徴)を基に、イメージをもちながら、～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な○○や□□など～どのように活動するか考えている。(造形遊び)</li> <li>感じたこと、想像したこと、～どのように(主題)を表すかについて考えている。(絵や立体、工作)</li> </ul> <p>○○や□□、下線部については、題材に応じた材料等を記載する。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい楽しく(進んで)(主体的に)～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>～○○で造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>～○○を組み合わせて、絵(工作)(立体)に表す学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul> <p>【主体態(表現)】 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとする事へ向かう主体的な態度を評価する。</p>	
<p>～身近で扱いやすい材料や用具～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>～材料や用具を適切に扱うとともに～</li> <li>～活動(表現方法)に応じて～</li> </ul> <p>～活動を工夫してつくっている。(造形遊び) ～工夫して表している。(絵や立体、工作)</p> <p>【技能】A「表現」(2)アイを基に作成 下線部を具体的な用具や材料に変えて示す。 表現の活動を通して育成する技能の資質・能力を評価する。</p>	<p>形や色など(の感じ)(造形的な特徴)を基に、イメージをもちながら～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>～自分たちの作品や身近な材料～〔1, 2年〕</li> <li>～自分たちの作品や身近な美術作品～〔3, 4年〕</li> <li>～自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品～〔5, 6年〕</li> <li>～見方感じ方を広げて(深めて)いる。</li> </ul>	<p>～つくりだす喜びを味わい楽しく(進んで)(主体的に)△△を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>△△については、題材に応じた鑑賞の対象を記載する。</p>	<p>【主体態(鑑賞)】 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などを基に、見方や感じ方を広げたり深めたりしようとする姿を評価する。</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材の作り方 (例:A表現「絵や立体、工作に表す」)

過程と基本的な学習活動	
出会う	<p><b>1 表現の見通しをもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇題材や材料、表現方法などとの出会い、イメージを膨らませる。</li> <li>◇題材の課題を立てる。</li> </ul> <p>【題材の課題】 〈題材全体で学習する 大まかな内容〉</p>
試す・広げる	<p><b>2 表したいことや主題を発想・構想する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。</li> <li>◇思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。</li> <li>◇表したいことや主題を基に、構想を練る。</li> <li>◇材料や用具、表現方法を習得する。</li> </ul>
表す	<p><b>3 構想を基に制作する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。</li> <li>◇材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。</li> <li>◇制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。</li> </ul>
振り返る	<p><b>4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。</li> </ul> <p>◇題材全体の振り返り</p>

### 〈例〉評価の位置付け (絵や立体、工作に表す題材)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知識】作品鑑賞などを基に、形や色などの感じや造形的な特徴を理解しているかをみとり指導に生かす。</p>	<p>【思判表(発想・構想)】表したいことを生み出し構想を練っているかを評価</p> <p>「出会う過程」の活動内容により、重点を置く評価の観点は変わります。(3観点全て評価するわけではありません。)</p>	<p>【主体態(表現)】「知識理解」や「発想・構想」に関する取組の態度を評価</p>
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技】題材で使用する材料や用具等に慣れ(生かし)(活用し)、表し方を工夫しているか、知識と一体的に評価</p>	<p>【思判表(発想・構想)】表したいことの変化などを基に再度評価</p>	<p>【主体態(表現)】「発想・構想」や「知識・技能」に関する態度を評価</p>
	<p>【思判表(鑑賞)】造形的なよさや面白さ、美しさなどについて考えているか評価</p>	<p>【主体態(表現)】題材全体を通して評価</p>
		<p>【主体態(鑑賞)】楽しく(進んで、主体的に)取り組もうとしている態度を評価</p>

### 「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

### 「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

・記は、題材の観点別学習評価の総括に用いる「題材の評価規準」を示しています。

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

・学習過程の後半での、記録が多くなることが考えられます。

〈題材終了後〉

<p>【知技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【思判表(鑑賞)】【鑑賞】ワークシートなどでの見取り</p>	<p>・題材終了後、完成作品やワークシート、アイデアスケッチなどを基に、必要に応じて評価を修正する。</p>
----------------------------------	-----------------------------------	--